1．人口増減率(1920～1985年)．(1920～1950年)
　人口増減率(1950～1980年)．(1980～1985年)
2．性　　比
　人口ピラミッド

1．人口増減率（1920～1985年）

我が国の1920年の人口は5596万3053人であったが、その後の65年間に6508万5870人増加し、1985年には1億2104万8923人となった。この間の人口増加率は116.3％で、平均変化率は1.19％である。

人口が増加した市区（区は東京都のみ）町村は2132で、全国3276市区町村の65.1％にあたる。人口増加率2％以上の市区町村は275あり、そのうち70％が東京（埼玉、千葉、東京、神奈川の各都県）、大阪（京都、大阪、兵庫の各府県）、名古屋（愛知、三重の各県）の三大都市圏に集中している。そのほか札幌市、仙台市、広島市、福岡市などの都市の周辺市町村に集中している。一方、人口減少率1％以上の市区町村は152あり、そのうち北海道の16が最も多く、次いで、愛媛県11、高知、鹿児島、沖縄の各県9と続いており、地方別にみると、北海道、中部、中国、四国、九州の各地方に多い。

都道府県別人口はすべて増加となっており、率としては神奈川県の2.7％が最も高く、次いで、埼玉県2.3％、千葉県2.1％と東京周辺の県で高い値を示し、最も低いのは、島根県の0.2％、次いで、徳島県0.3％となっている。

〔凡例と作図の要点〕

これらの図は、1920～1985年、1920～1950年、1950～1980年、1980～1985年の4期間の人口増減率を、市区（区は東京都のみ）町村別に年平均変化率（幾何平均変化率）で表わしたものである。市区町村別人口は、1985年国勢調査時の市区町村の境域に組替えたものを用いた。

幾何平均変化率とは、人口などの統計量の変化率をいくつかの複数の期間について比較する場合に、変化が各年ごとに幾何級数的にあるいは複利的に発生すると仮定して用いる方法をいう。

〔主な資料〕

1．総務庁統計局，昭和55年10月1日の境域による各回国勢調査時の市区町村別人口
2．総務庁統計局，昭和60年国勢調査報告

1．人口増減率（1920～1950年）

1920～1950年の30年間に我が国の人口は2815万1521人増加した。この間の人口増加率は50.3％で、平均変化率は1.37％である。

人口が増加した市区（区は東京都のみ）町村は3168で、全国3276市区町村の96.7％にあたる。人口増加率2％以上の市区町村は369あり、そのうち北海道が92で全国の25％を占め最も多く、次いで、東京都35、大阪府27、宮城、福岡の各県18となっている。一方、人口減少率1％以上の市区町村は21あり、そのうち東京都が8で最も多く、大部分が都心部の区となっている。

都道府県別人口はすべて増加となっており、率としては、神奈川県の2.1％が最も高く、次いで、北海道2.0％、宮城、東京、青森の各都県1.8％と続き、人口増加率が最も低いのは、沖縄県の0.7％、次いで、福井県0.8％となっている。

1．人口増減率（1950～1980年）

1950～1980年の30年間に我が国の人口は3294万5822人増加した。この間の人口増加率は39.2％で、平均変化率は1.11％である。

人口が増加した市区（区は東京都のみ）町村は1065で、全国3276市区町村の32.5％にあたる。人口増加率2％以上の市区町村は315あり、そのうち68％が東京、大阪、名古屋の三大都市圏に集中している。そのほか札幌市、広島市、福岡市などの都市周辺および三大都市圏に隣接する取手市、各務原市、御殿場市、奈良市などの周辺市町村に集中している。一方、人口減少率2％以上の市区町村は297あり、そのうち北海道が40で最も多く、次いで、広島、愛媛、鹿児島の各県20、長野県16、長崎県15と続いている。

都道府県別人口は33都道府県で増加し、14県で減少している。人口増加率は、神奈川県の3.5％が最も高く、次いで、埼玉県3.1％、千葉、大阪の各府県2.7％、東京都2.1％と続き、東京周辺の県が高い率を示している。一方、人口減少率は、島根県の0.5％が最も高く、次いで、鹿児島県0.4％、佐賀県0.3％となっている。

1．人口増減率（1980～1985年）

1980～1985年の5年間に我が国の人口は398万8527人増加した。この間の人口増加率は3.4％で、平均変化率は0.67％である。

人口が増加した市区（区は東京都のみ）町村は1693で、全国3276市区町村の51.7％にあたる。人口増加率2％以上の市区町村は228あり、そのうち埼玉県の26が最も多く、次いで、千葉県20、茨城県15、福岡県11、山梨県10と続いている。一方、人口減少率2％以上の市区町村は123あり、そのうち北海道の24が最も多く、次いで、新潟県9、長崎県8となっている。

都道府県別人口は、人口減少率0.04％の秋田県を除きすべてが増加となっている。人口増加率1％以上の県は、千葉県1.7％、埼玉県1.6％、奈良県1.5％、神奈川、滋賀の各県1.4％、沖縄、茨城の各県1.3％の7県である。

2．性比

1985年10月1日現在における我が国の人口の男女構成は、男子5949万7316人、女子6155万1607人で、女子が男子より205万4291人多く、女子100人あたりの男子数である性比は、96.7人となっている。

性比を都道府県別にみると、神奈川県の104.9人が最も高く、次いで、埼玉県102.1人、東京都101.4人、千葉県101.1人、愛知県100.1人と続き、これら5都県では男子人口が女子人口を上回っている。一方、最も低いのは、鹿児島県の89.0人で、次いで、佐賀、大分の各県90.2人、高知県90.3人となっている。

性比を5歳ごとの年齢別にみると、40歳未満はいずれも100.0人以上であるが、40歳以上はすべて100.0人を下回り、年齢の増加とともに性比が低下する。これは年齢別死亡率が常に男子が女子を上回り、その差は年齢が高くなるに従って大きくなるためである。

過去50年間の性比の推移をみると、1935、1940年には100.0人を上回っていたが、第2次世界大戦による男子の戦死傷などによって、1945年には89.0人と低くなった。その後、海外からの引き揚げなどによって1950年には96.2人と高まり、以後96人台で推移し、1985年は96.7人となっている。

〔主な資料〕

1．総務庁統計局，昭和60年国勢調査報告
2．総務庁統計局，昭和60年我が国人口の概観

2．人口ピラミッド

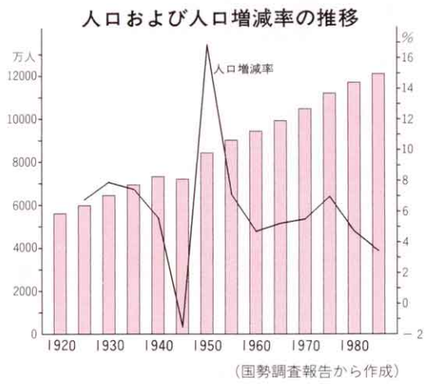
1985年10月1日現在における我が国の年齢別人口構成を人口ピラミッドの型でみると、35～39歳および10～14歳の二つのふくらみをもつひょうたん型となっている。年齢別人口は、男女とも36歳が最も多く、男子121万92人、女子119万8240人である。

同じく、人口ピラミッドの型で年齢別人口構成の推移をみると、1920～1935年までは、若い年齢層が多く裾野の広い富士山型をしていたが、1940～1950年は富士山型ながらも、第2次世界大戦の影響から20～35歳男子の欠けた型となった。1947～1949年の第1次ベビーブーム以後、出生率は低下を続け、1960年は裾野の狭い壺型に近くなった。その後、第2次ベビーブームを迎え、1970、1975年は裾が広がった星型に変わり、1985年にはベビーブームの二つのふくらみを持つひょうたん型となっている。

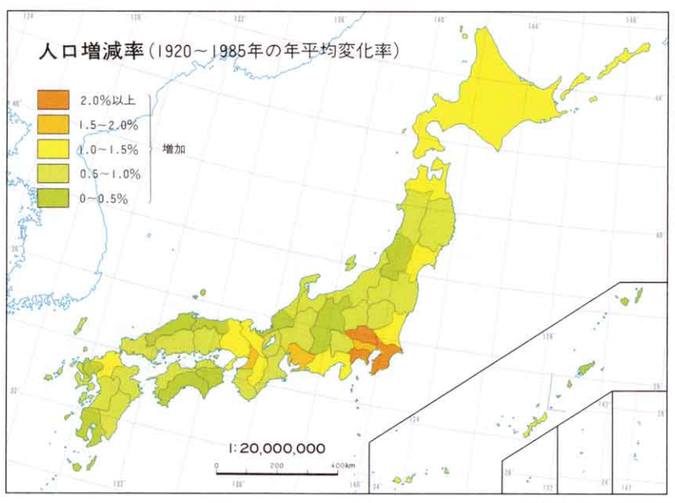
〔主な資料〕

1．総務庁統計局，昭和60年国勢調査報告
2．総務庁統計局，昭和60年我が国人口の概観

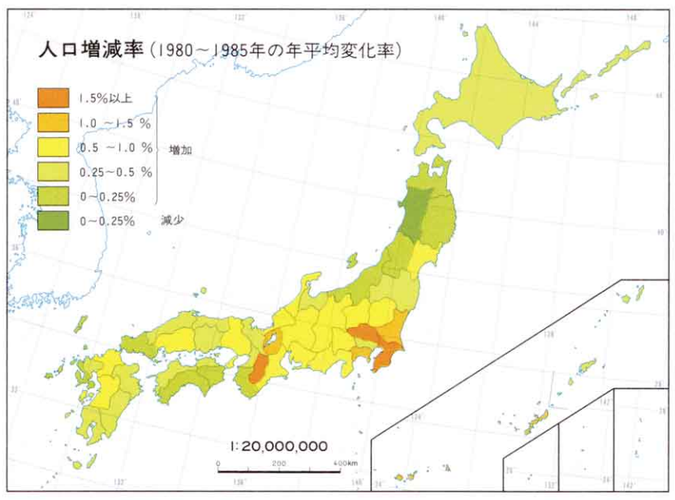
人口および人口増減率の推移



（国勢調査報告から作成）



（国勢調査報告から作成）

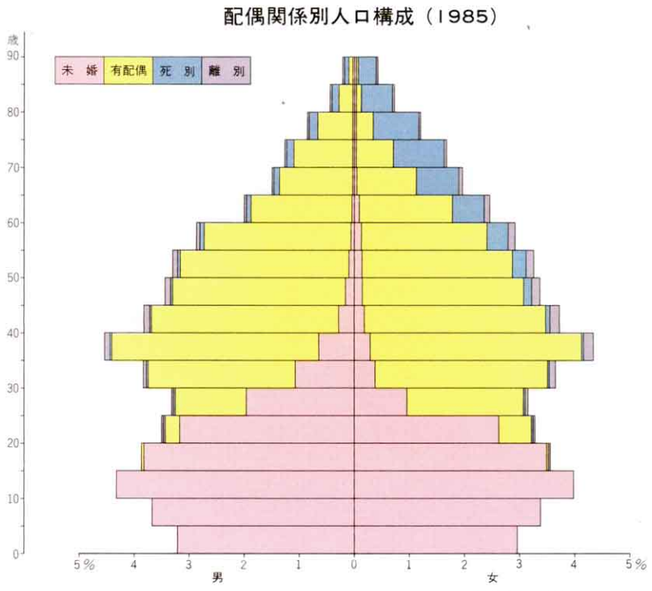


（国勢調査報告から作成）

年齢別性比（1985）

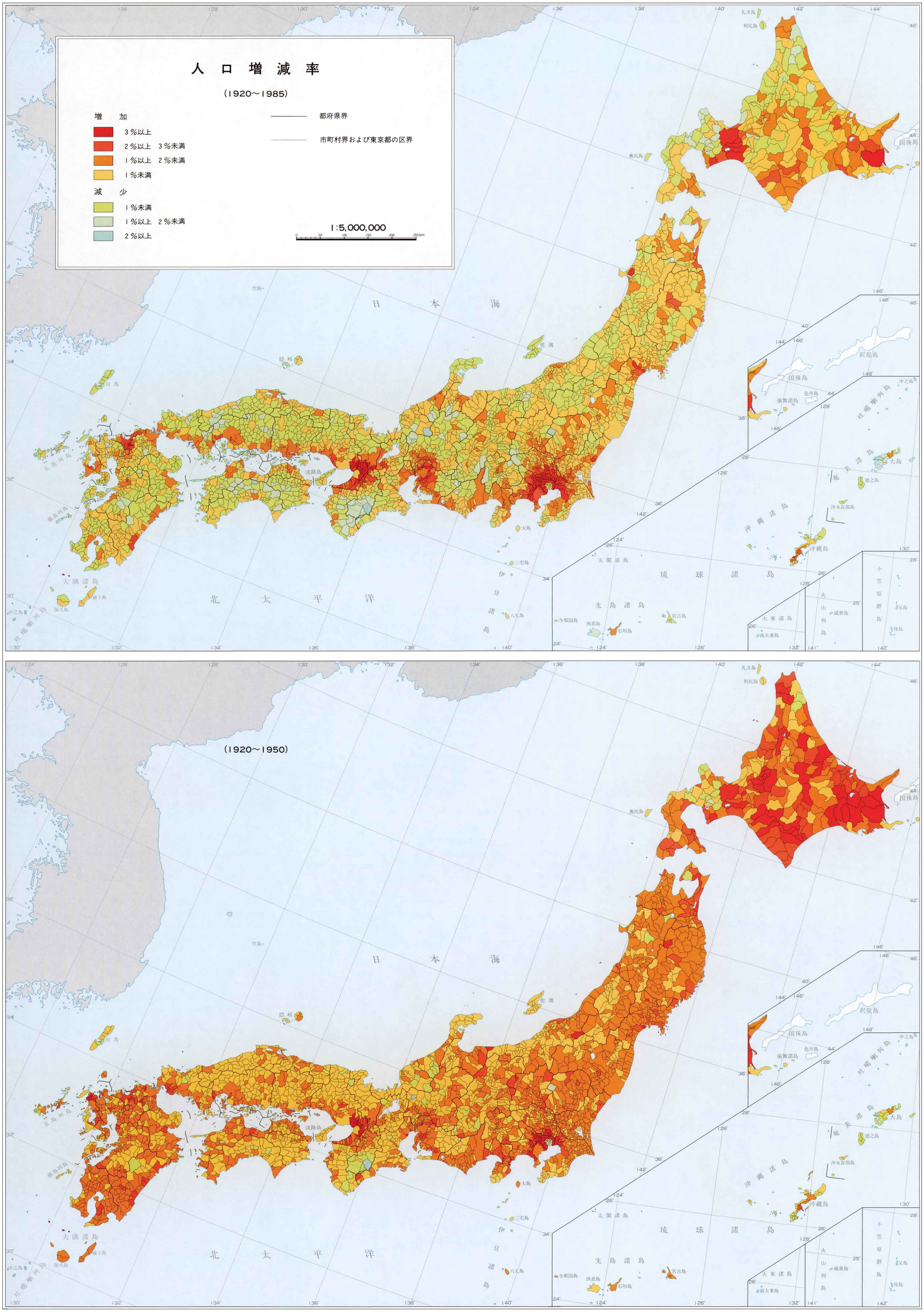
（国勢調査報告から作成）

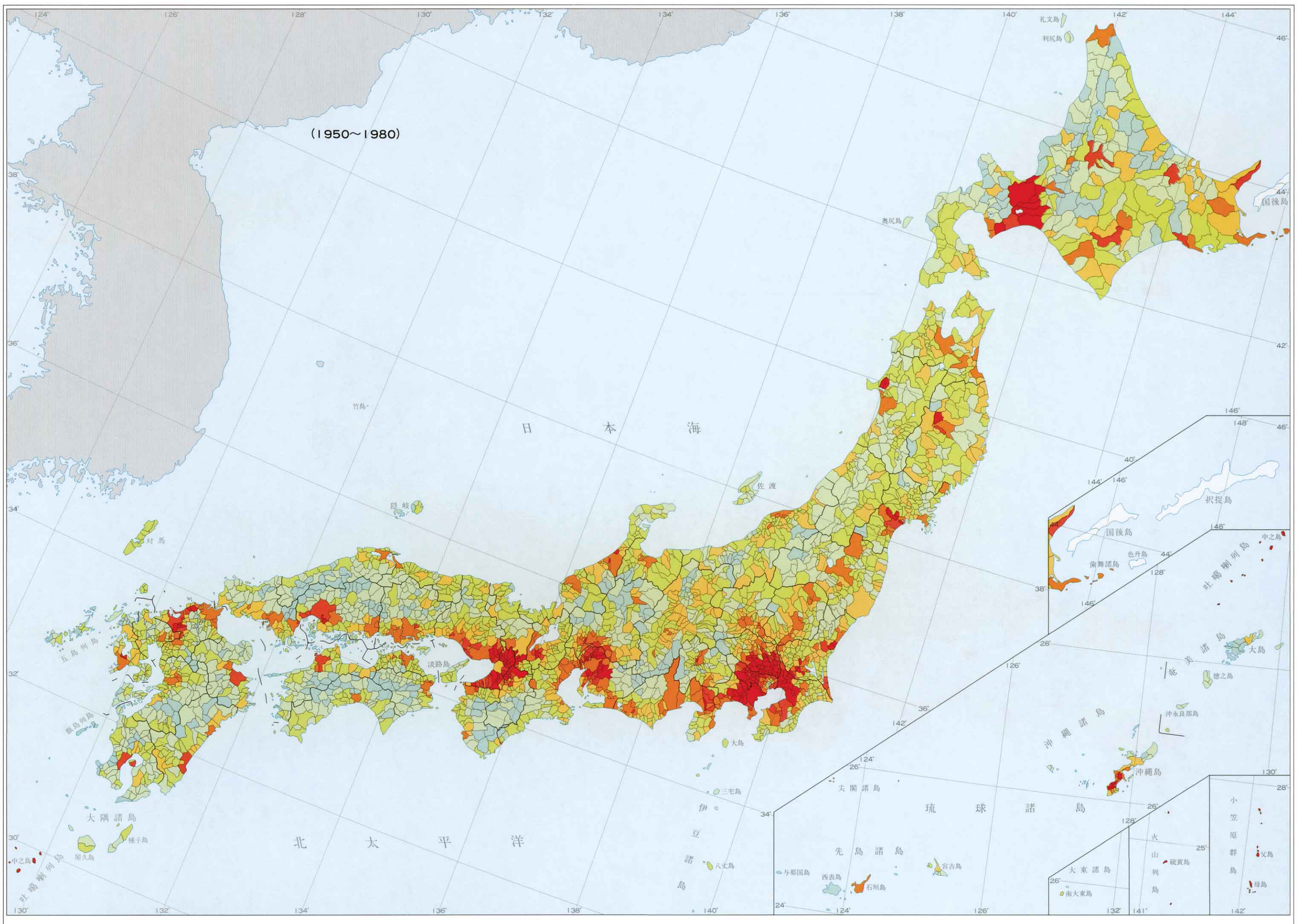
配偶関係別人口構成（1985）

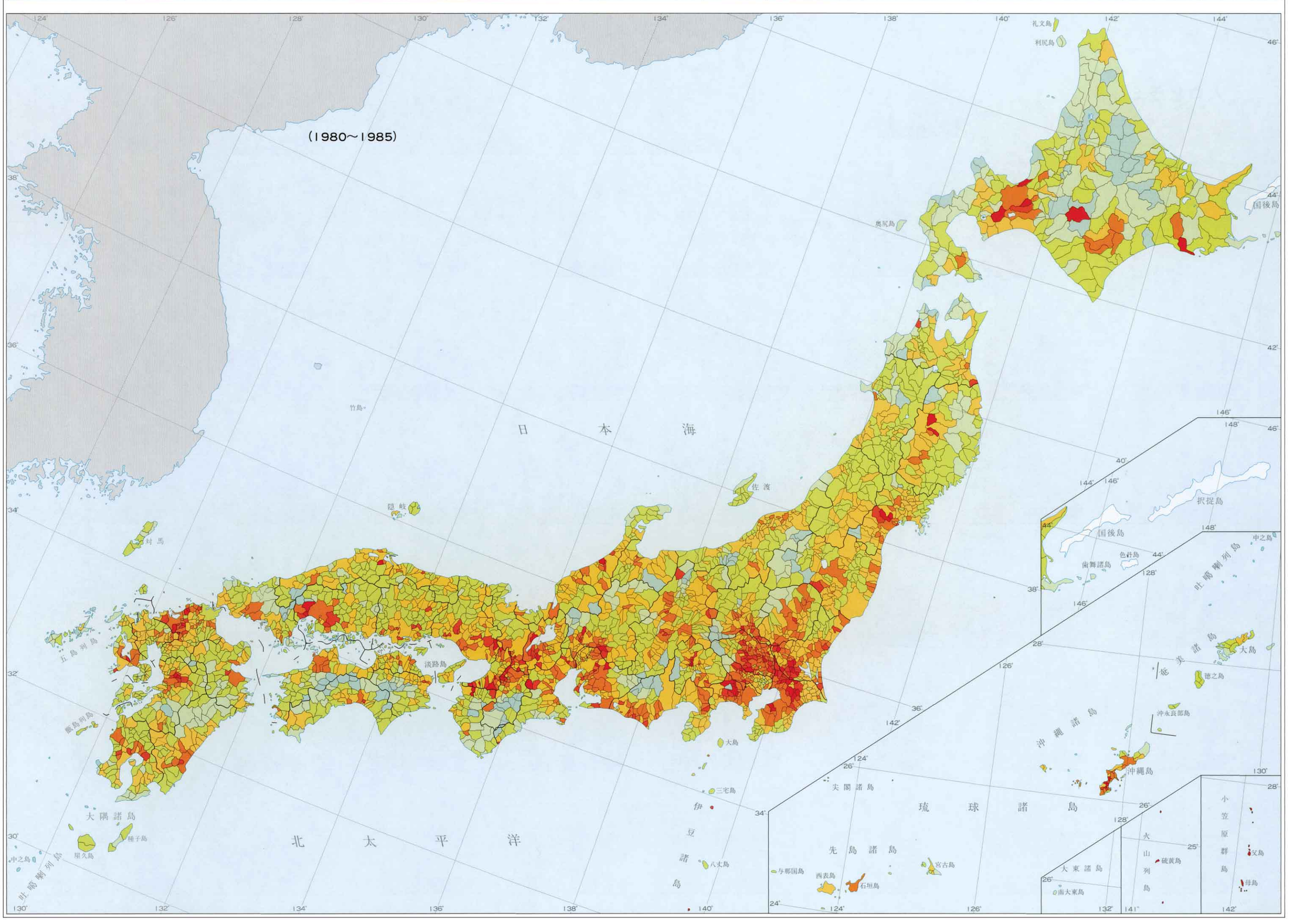


（国勢調査報告から作成）

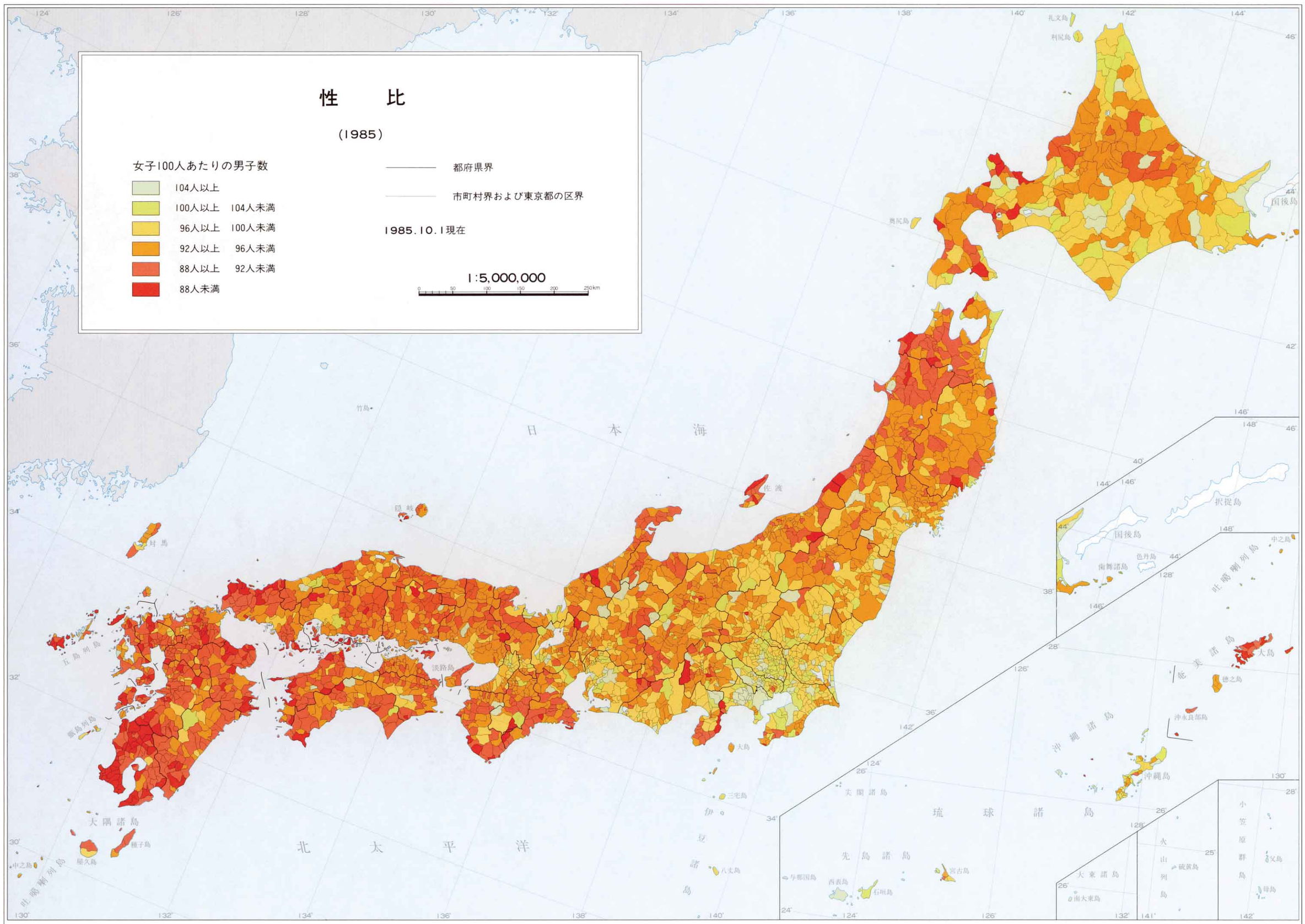
21.1

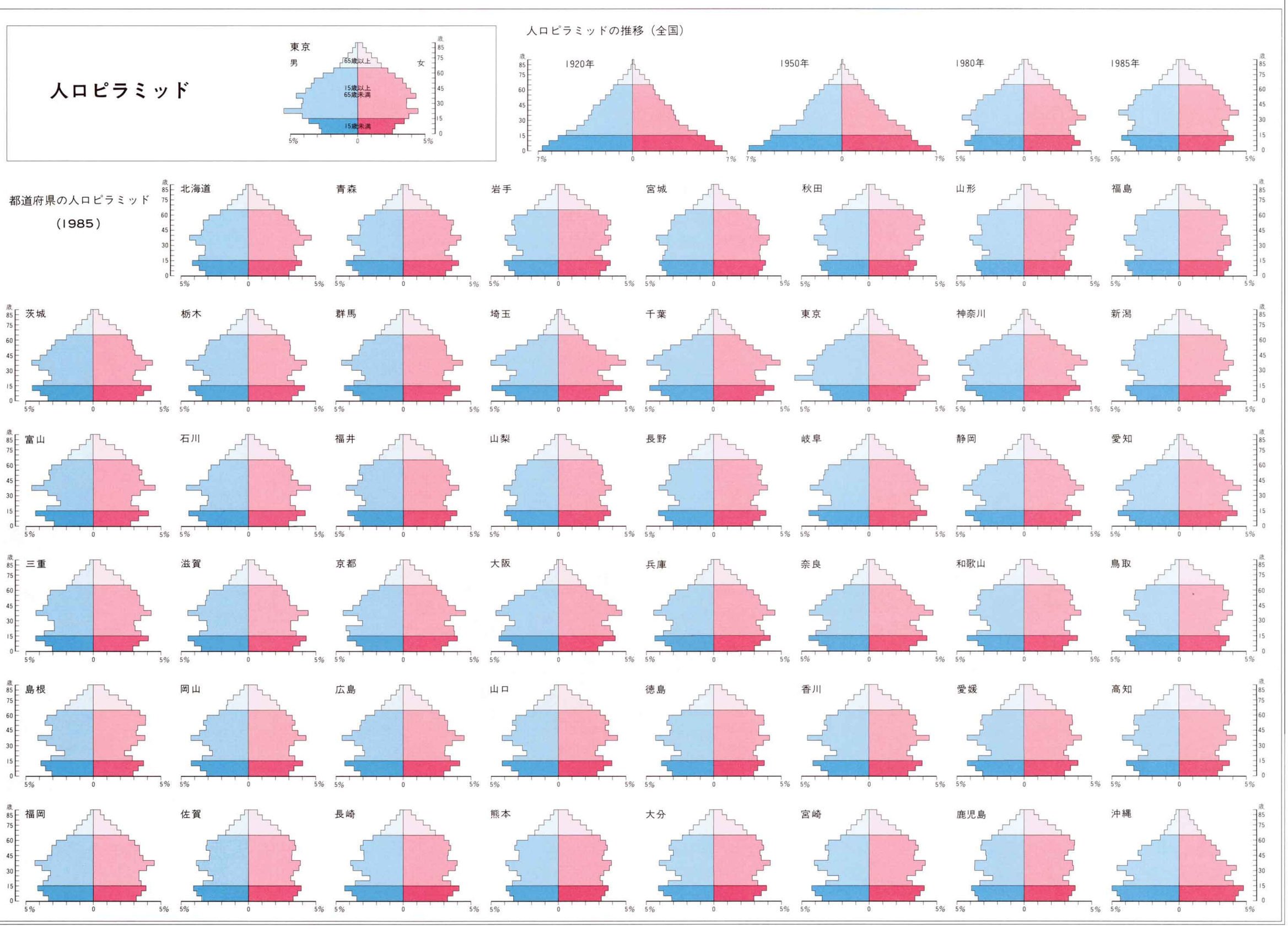

人口増減率
(1920～1985)
増加
3%以上
2%以上 3%未満
1%以上 2%未満
1%未満
減少
1%未満
1%以上 2%未満
2%以上
都府県界
市町村界および東京都の区界
1:5,000,000
日本海
北太平洋
琉球諸島
(1920～1950)


(1950～1980)
日本海
北太平洋
琉球諸島
沖縄諸島
沖縄島
奄美諸島
大島
徳之島
沖永良部島
吐噶喇列島
中之島
小笠原群島
父島
母島
硫黄島
火山列島
大東諸島
南大東島
先島諸島
与那国島
西表島
石垣島
宮古島
尖閣諸島
伊豆諸島
八丈島
三宅島
大隅諸島
種子島
屋久島
五島列島
薩島列島
淡路島
隠岐
佐渡
対馬
竹島
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
奥尻島
利尻島
礼文島


(1980～1985)
日本海
北太平洋
琉球諸島
沖縄諸島
沖縄島
奄美諸島
大島
徳之島
沖永良部島
吐噶喇列島
中之島
小笠原群島
父島
母島
硫黄島
火山列島
大東諸島
南大東島
先島諸島
与那国島
西表島
石垣島
宮古島
尖閣諸島
伊豆諸島
八丈島
三宅島
大隅諸島
種子島
屋久島
五島列島
薩島列島
淡路島
隠岐
佐渡
対馬
竹島
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
奥尻島
利尻島
礼文島

21.2


性　比
(1985)
女子100人あたりの男子数
104人以上
100人以上　104人未満
96人以上　100人未満
92人以上　96人未満
88人以上　92人未満
88人未満
都府県界
市町村界および東京都の区界
1985.10.1現在
1:5,000,000
日本海
北太平洋
琉球諸島
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
小笠原群島
火山列島
大東諸島
先島諸島
沖縄諸島
奄美諸島
伊豆諸島
大隅諸島
吐噶喇列島
五島列島
対馬
佐渡
隠岐
淡路島
竹島
礼文島
利尻島
奥尻島
天草島
三宅島
八丈島
屋久島
種子島
中之島
与那国島
西表島
石垣島
宮古島
沖縄島
沖永良部島
徳之島
大島
父島
母島
硫黄島
南大東島


人口ピラミッド
東京
男
女
65歳以上
15歳以上
65歳未満
15歳未満
人口ピラミッドの推移（全国）
1920年
1950年
1980年
1985年
都道府県の人口ピラミッド
(1985)
北海道
青森
岩手
宮城
秋田
山形
福島
茨城
栃木
群馬
埼玉
千葉
東京
神奈川
新潟
富山
石川
福井
山梨
長野
岐阜
静岡
愛知
三重
滋賀
京都
大阪
兵庫
奈良
和歌山
鳥取
島根
岡山
広島
山口
徳島
香川
愛媛
高知
福岡
佐賀
長崎
熊本
大分
宮崎
鹿児島
沖縄